

第 15 回中部電力原子力安全向上会議アドバイザーボード 議事要旨

1. 日 時：2021 年 8 月 3 日（火）13 時 00 分～15 時 30 分

2. 場 所：中部電力本店内会議室

3. 出席者：＜社外委員＞

（本店ビルにて出席）小林委員、勝治委員、長崎委員、服部委員

（Web 会議にて出席）横山委員

＜社内委員＞林社長、増田（博）副社長、水谷副社長、

伊藤専務、伊原専務、片山専務

（経営考査室長、総務・広報・地域共生本部部長、

経営戦略本部部長等同席）

4. 議事要旨

「前回のアドバイザーボードでのご意見について」、「原子力部門、経営考査室、広報部門の取り組み」、「今回の安全向上会議での指示・議論」、「浜岡原子力発電所の安全性向上への取り組み」について当社より説明。多岐にわたる議論がなされた。

社外委員からの主な意見は以下のとおり。

- 今後、今まで経験していなかったような自然現象、あるいは社会現象が今後発生する可能性が非常に高い。その対応には相当のコストを要すると思うが、これまでとは状況がかなり変わっているため、最悪の事態を防ぐ危機管理や、結果として無駄になるかもしれないがある程度の備えは必要。
- 軽微なヒューマンエラーについては、その時の心理的状況や行動をメンバーで共有することで以降のヒューマンエラーを低減する考え方もあると思う。
- 作業前に現場での様々な注意点等を具体的に示す 2 分間レビューはよい取り組みであるが、場合によりやり方を変え、ワークショップのような形で意見を出し合いながら時間をかけて確認することにより、気づきになることもあるではないか。
- 2 分間レビューと同様の取り組みは今までもなかったわけではないが、このような取り組みは実施しているうちにマンネリ化しやすいため、作業責任者等を中心に、粘り強く継続的に実施できるよう工夫してほしい。
- ポイント集に記載された事項の大半はすぐに実施できるものだと思うが、どのような場で、どのようなシチュエーションで活用していくかということに関し、工夫の余地があると感じた。
- 今後、ますます運転経験者と未経験者の年齢が離れてくると、それぞれにとっての「当たり前」が相違することが想定されるため、意識して未経験者がわからないポイントを探り、ジェネレーションギャップを埋めていくことが必要である。
- 新技術の収集等による継続的な安全性向上に関し、福島第一原子力発電所の事故は非常に多くの教訓があるので、ぜひ積極的に事象の分析や情報収集をしてほしい。
- エネルギーの経済性、安定供給に関する課題解決には、原子力が必要不可欠であるということをメディア等に積極的に説明し、理解してもらうことが必要である。
- メンテナンス要員の逼迫は、10 年後には大きな問題になる。その時に、メンテナンスを人手ではなく、客観的なデータに基づき、劣化の兆候を掴んで対応することにより、費用全体が低減する効果がある。

- 原子力の理解を得るためには、まずは再エネに力を入れていることをしっかり発信した方がよい。再エネには積極的に取り組んでいるが、それだけでは安定供給が困難であることから原子力も必要である、という説明が必要ではないか。
- 今後は、若者世代がターゲットになっていくと考える。引き続き SNS に親和性が高い世代に対しての効果的な伝え方をよく分析、検討し、情報発信を強化する必要がある。

以 上